

観音寺市立学校再編計画検討委員会会議録

(第3回会議)【要約版】

日 時 平成20年7月16日(水曜日)
午後7時30分～午後9時40分
場 所 三観広域電算センター3F会議室
出席者 委員19名(欠席1名)
事務局6名、教育長

会議次第

1. 委員の交代について
2. 会長あいさつ
3. 会議録署名人
4. 資料説明
 - (1) 公立学校施設整備にかかる国の負担金・交付金等について
 - (2) 大規模校・小規模校におけるメリットについて
 - (3) 通学の最長距離等について
5. 議題
 - (1) 学校再編の基準について
 - (2) 学校再編の具体的方策の検討にあたって
6. その他

司会者 時間が参りましたのではじめたいと思います。
(委員の交代を知らせる。)

会 長 お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今日は第3回の検討委員会です。大変暑い日が続きます。さて今日の検討委員会は前回の学校再編の基準における適正な学級数に続く通学距離についてであります。そこまでは、第3回検討委員会で決めたいと思っています。2時間ほどですが集中して審議して、決定していきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

事務局 (会議録署名人を指名する。)

会 長 それでは、会議次第に従いましてすすめてまいりたいと思います。資料説明4の(1)の公立学校施設整備にかかる国の負担金・交付金等についてであります。事務局の方から説明をいただけますか。

事務局 (資料を読み上げながら説明する。)

会 長 負担金・交付金につきまして説明いただきました。なかなか専門家でないとわかりにくいところがあるのですけれど、要は国の負担・補助の部分で、最も多いのが2/3というのがあり、その次1/2で、最も率の少ないのが1/3とランク付けされていますが2/3というのが地震に対する建物の補強を最も急ぐものであり、大変危ないものについては3年以内に実施しなさいということで、これだけの補助がされています。それから統廃合を進めるという観点から1/2の補助があり、それ以外のものが1/3というふうに国の考え方が出ていると思いま

す。そして、地方債、これは借金であります。これは単年度ではお金がかからないようにみえますが、将来の観音寺市の若者たちにかかる負担だと考えれば、これも整備に係る費用であることはまちがいありません。それを除いて国の負担と地方債を除いたものの中から県費での補助が出ています。いかがでしょうか。

委員 2、3日前に知事の答弁の中で、香川県の場合、努力をしたけれど、35%くらいで、県も積極的にしますと話していましたが、現在の制度はこれでしょうか。

事務局 現在の制度はこれです。知事答弁をうけて追加ができれば、われわれとしてはありがたいという段階です。

会長 今耐震率が5割を越えたくらいのところですかね。全校舎の中で基準を満たしているものは、いかがでしょうか。現時点1s0.3未満はあるのですか、観音寺市の校舎で。大変危険なものがありますか。

事務局 今調査中です。順次数字を出しまして、支障あるものには、優先順位をあげて対応してゆく方針です。

会長 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

議事を進めます。資料説明4の(2)の大規模校・小規模校におけるメリットについて、事務局の方から説明いただけますか

事務局 (資料を読み上げながら説明する。)

会長 大規模校・小規模校のメリットを比較してもらいました。大規模校のメリットの反対が小規模校のデメリットになると思います。これは教育環境という点での大規模校・小規模校のメリットであります。これ以外にももちろん行革的な観点とか地域の文化を守るという観点からいろいろなところから統合を進めるのか、大規模校化してゆくのか、小規模校を残すのかという議論はもちろん出来るかと思えます。ここでは子どもにとっての教育環境あるいは学校運営を考えた時の大規模校・小規模校のそれぞれのメリットをまとめていただいたものです。いかがでしょうか。ご意見、あるいは追加等いかがでしょうか。

委員 メリットとデメリットは私には裏返しではないと思います。一番は子どもの立場で考えるべきだと思います。ここでは行政とかいろいろな多様な立場で考えなければなりません、最終は子どもにとってどうかメリットだと思います。

会長 そうですね。どういう観点を最も大事にすべきなのは、子どもの健やかな育ちであるということで、皆さんご理解いただけたと思います。

委員 大人の考えばかりでメリットが書かれています。本当は、今言われたように子ども中心に考えなければいけないと思います。文科省ばかりに頼っていないで、ここに出てきたからには皆さん発言していただきたい。そのためにはディベートと言って、賛成と反対にわかれてお互いに意見を交わすといったようにすれば全員が参加したことになりますので、そういったことを提案したいのですが。

会長 委員さんにはいつも口火を切っていただいたり、皆さんがわがこととして考えるきっかけを作っていただいたりしていると思います。国等の方針もありますが、私たちは観音寺市のことを考えて観音寺市の子どもたちにとっての大規模校、小規模校のメリットはということで議論いただければと思います。ただ子どものためといっても集団の中で切磋琢磨が大規模校にはあるし、一方、小規模校では子ども一人ひとりをよく見られるといったところがあり、

わたしたちはどちらを重視するかで考え方が異なってくると思います。大規模校のみが、小規模校のみがいいといえない部分がそれぞれにあると思います。

委員 私の小学校時代というのは1クラス 50 人いた時代からみれば、今のは大規模校も小規模校もあまり変わりがありません。現実的に、この大きい学校でも、小さい学校でも子どもたちが遊ぶ現場を見れば、みんなゲームで遊ぶ、本当にみんなで遊んでいないです。大きい学校なのに、みんなで子どもが遊んでいません。小さい学校ではみんなで遊んでいます。いろいろあると思います。先日、ある小学校に行ったのですが、ここは小学校6年生がいない本当に小さい学校でした。先生を囲んで運動場で子どもたちが活動していたらすごくほほえましいです。あんな学校いいなあ、すごく自分の子どもの頃を思い出しました。小学校で、先生、私の存在を知っているかなという感覚ですから、うらやましいなと思いました。けれども子どもはその中で、ずーと大きくなるのではないのです。やはり社会へ出たりします。そのような環境の中で育つのもいいけれど、子どもの時から広いところで育って、社会へ出てゆくその準備の段階であるから、やはり大きいところで育成をするべきであると思いました。

会長 ありがとうございます。ただ本当に大規模校であってもそのメリットを十分に生かせるような先生方の、あるいは教育行政の取り組みですよね、以前は、子どもたちは、放課後は群れで遊んでいました、その中でたくましく育っていたのだと思います。ぜひとも行政の方からや学校をあげて取り組んでいただきたいと思います。

委員 大規模校で、今、社会で問題になっているいじめとか、そういうのは、どこに要因があるのかは、小規模校の方が究明しやすいわけです。ただ大人や世間の人、責任ばかり追及して、どうしてそうなったかという要因を研究しないことが多々あります。本当に陰湿なことが現実に社会で発生しているのは大規模校がおおもとです。だから大規模がいいとは必ずしもいえません。活気がないというのは大人が勝手に言うことで、子どもは活気があります。5人よればワーワー言っています。

委員 いじめの問題というのは、大規模校に多いと思いますが、大規模校であれ、小規模校であれいじめというのは、私がかかわった感じでは、家庭の問題が大きくて、学校が大規模校とか小規模校だからというのは、それほど重視すべき問題ではないと思います。

委員 私は、実際の経験から言っています。家庭は、学校が悪い悪いと言い責任を転嫁し、学校は家庭に転嫁したいのですができません。先生、しっかり教えたらいいのではとされます。大勢いれば、子どもを見る方に、時間がとられます。そういうジレンマに落ちています。小規模校、14、15人なら、そうしたことが全然起こりません。スムーズに行っていました。大きくすれば大きくするほど、他の問題が発生して、先生はその方が忙しくなります。

会長 小規模校の方が、先生方の指導が届きやすい。当然ありますね。いじめの問題にしろ、他の問題にしろ。先生方が、いろいろなトラブルに振り回されることが少なくなってきました。いじめをはじめ子どもたちの仲間関係の問題は、子どもらのコミュニケーション能力とか社会性にかかわってきます。どういうふうに子どもたちをたくましく育ててゆくのか、社会性のある子に育ててゆくのか、それは大規模校であってもそこに有利、不利さがありますけれど、課題であり、小規模校であっても課題であることは間違いないと思います。小規模校にもいじめはあり、大規模校にもあります。いずれにせよ、私たちは子どもたちをたくましく、社会性のある子どもに育てていかなければならないことは間違いないと思います。

委員 政策を見ると、大規模にして、放課後に教室で、支援、学びあい、支えあいなどの推進事業をするために、国はさらに予算を組んでいます。予算がないから大規模化し、それをするにより問題が発生します。不登校にしても昔はありませんでした。大きくするから不登校関係の予算ができました。小規模だったら先生が心配して見に行ったら登校していました。国は余分な予算を使っているように思います。

会長 後手後手に回ったり、いたちごっこになったりしているところがあるかもしれません。でも、議論の中心にあるのは、子どもの数が減ってきたことです。学校によっては、学年で1学級しかありません。その中で、子どもの数もどんどん減ってくるということで、子どもたちが遅く生きていくためには、ある程度の数が必要であります。小規模校といっても少なくなる度合いというのがあると思います。小規模校もさらに過少化していくと、そのメリットを失うことがあると思います。大規模校だってさらに大規模化するということがあると思います。そこで、今学校の方からご意見を聞きたいと思います。

委員 今、不登校とかいじめの問題とかが話されていると思いますが、私も数の多い学校も少ない学校もいろいろ経験しました。多い学校は1学年8クラスというところも経験しました。そこでは1学年3クラスは小規模校です。わずか600人かという時代でした。多いところは2,000人くらいで、あまり多いところは、運動会は、今日は低学年の運動会、今日は中学年のと日にちを変えて行い、職員室も低学年の職員室、中学年のというふうに分かれていました。先生が一同に会することがありません。先生でさえ校長の顔を見たことがない状況でした。そのような状況は、私は不適切であると思います。ここではそんな状況は全く関係ないと思います。

次にある学校に勤めたことがあります。100人前後です。資料にかかっているような確かにメリットがあります。いじめや不登校はありませんでした。非常に困ったのは、保育所から小学校6年生までずーと9年間同じであるということです。クラス替えがあればと何回か思いました。環境が変わるといことは、先生が変わる以外にありません。2学期、3学期になると確かに不登校の子もいますし、いじめの問題も起きます。仮に500人いて、5人不登校になれば、100人に1人と同じ率になります。大規模校は、率的には低いけれど数的には多いかもしれません。それから、どうにもならない場合には、クラスを替えることができます。今の学校では2年に1回クラス替えをしています。学級数が増えたり減ったりすると1年間で変わる場合がありますが、大規模校ではそのようなことを考慮しやすいということです。保護者の出席率は下がります。例えば、PTA総会とか地域懇談会とかで。小規模校では、ほとんどみんな知っていますから、来なければどうしたのかと言われることがありますので、万難を排して行きますが、多くなればなるほど、1人や2人いなくてもという意識ができると思いますので、率が下がります。そこらが、地域の連携がしやすいかどうかということだと思います。

会長 1学年1学級だとクラス替えができないということですね。やはり、クラスが変わるといのは、子どもたちにとって、新しい友だちをつくるという大変な思いをするわけですが、それがかれらを育てる部分とか、問題が発生した時の対処とかを考えた時には、人間関係の固定化を防ぐ意味でもクラス替えがあり、今回適正な学級数ということで、1学年2学級、クラス替えが可能な12学級以上が望ましいという基準をこの前、認めていただいたわけで

すが、それくらいが適正な規模であるのかと思っています。ただ、都会の1学年8クラスとなりますと、本当に大規模校の弊害が大きく出てくるのだと思います。いかがでしょうか。それぞれのメリットをまとめてあるわけですが、落ちている観点等がありましたら。

前は、中学校は、適正な学級数9学級以上が望ましい。あくまで、望ましいですけど、これは1学年3学級以上の学校運営があり、それから主要教科において複数の教員が配置できるということを考えながらであります。いかがでしょうか。

委員 学級数と規模については、中学校であれば9学級以上ということで、そうかなあという気持ちはあります。私もこれまでの経験から、ここにありますようなメリット表というのはおおむねこれでよいのではと思います。ただ、例えば集団生活の中に書かれている大規模校のメリットとして自己肯定感が育つというふうに書いていますけれど、これは小規模校でもやはり1人が受け持つ役割が大きく、たくさんありますから、子どもたちの自己肯定感は、大規模校だから育つということはいえない面もあるのではないかと、この表を見て感じました。

もうひとつは、学校ですので、教員の立場でありますとか、保護者の立場でありますとかもあると思います。それぞれの立場で、メリットが多少変わってくるのかという気がします。教員の立場で言う小規模校であれば、子どもが少ないということは、1人の子どもに対して、その学校のほとんどの教員の目が、その子に向きますから、子どもの名前とか性格とかすぐに把握しやすく、子ども理解につながります。子どもが多いとそれだけ時間がかかりますし、子ども理解には一朝一夕にはいきません。教員の立場、保護者の立場等により、メリットのとらえ方というのは多少差が出てくる気がします。

会長 ありがとうございます。集団生活の最後の大規模校のメリットのところは自己肯定感が育つと書いてありますけれど、私も読んで、小規模校であれば一人ひとりが大切にされるに伴う肯定感がありますし、大規模校であれば集団でやり遂げたときの達成感からくる自己肯定感もあるし、それぞれに自己肯定感もあるし、それぞれに挫折や失敗もあるのだと思います。表では大規模校だけにありますが、妥当ではないのではと思います。いかがでしょうか。

委員 今言われている中で、大規模校と小規模校のはっきりしないところがあります。大規模校とは一体どのことを言うのでしょうか。小学校12学級以上になれば大規模校と考えたらよいのでしょうか。その基準によって異なると思います。また、一人ひとりを大切にすることになりましたら、そんなに大規模校、小規模校とも変わりはありません。ただクラスが多くなると、委員さんが先ほどいわれたように幼稚園の場合でも、大野原幼稚園になると3歳4歳5歳になりましたら、3クラス4クラスありまして、それこそ発表会とかが1日でできなくて、2日に分けて行われることもあります。そして、子どもの生活というのが毎日、毎日友だちや先生との関わりの中で積み上げてゆくものですが、2日に分けてするということが、子どもの生活にとってどうかなあということがあります。そして、いじめ的なものにつきましても、やはり1クラスだけでしたら、自分があの子とあわないけれど、じゃ、隣のクラスにクラス替えになる部分がなかったらその子は、1学年1クラスとなるとずーと同じクラスになります。そこらあたりは、なかなか難しい部分もあって、大きくなるまでずーと優位に立つ子は優位に立つということを、聞くことがあったので、この場で、クラス数とかを本当によく考えて検討していかなければとつくづく思います。

会長 正確な定義で、何学級以上を持って大規模校とし、そのメリットはという感じではなく、

それぞれの委員さんのイメージの中でやっていることです。いかがでしょうか。

委員 私は、これを見ていたら、いわゆる集団教育の方へ向いていっています。そうなればいけないです。教育は、観音寺市でいえば、約14%が予算になっていますが、ウェイトが軽すぎます。その中で、少子化対策とかいろいろな対策がとられるほど、集落が過疎化しています。ある地域では、今は、学校はありません。なくなれば親は、統合したところに出て来て、家を建てます。今まで住んでいた家は、廃屋になります。そのように限界集落を生むために学校を統合しているのかと思います。そういうことをしたら大変なことになります。せっかく今まで文明の灯を山の中でともしてきたのが、今消えてしまっています。ふるさとを軽率にしてしまっています。そういう世の中にしてしまったらいけないから、あえて逆ばかり言っています。

会長 お気持ちがよくわかりました。小規模校のメリットをいわれました背景も大変わかりました。それは、また皆さんに共感できるところでもあるかと思います。みなさん、故郷を見守りたいです。

委員 仮に、今度、9月になれば、運動会があります。例えば、大規模校のある小学校の運動会を見て、続きに隣の小規模校の運動会を見に行ったらよくわかります。規模が小さくなっています。だけど地域の人が一体となって、お年寄りといわず、自治会といわず、婦人会といわず全部がよって活発にやっています。生きがいを感じてしています。それを見たら、大きくしたらいけない、小さな火は小さくして守ってその地域で、誇れる方へ行かなければならないと思います。

会長 よろしいでしょうか。このメリット・デメリットについて、一度議論してゆくことが、私たちがまたそれぞれの地元の推進母体に戻って、説明する時に、ここで議論されたことも思い出しながら、ご理解されることが可能かと思い、あえて時間をとり、話し合いました。

学校関係の方を指名させていただきましたが、いかがでしょうか、PTAから出てこれている方もおられると思います。

事務局 単純に大規模校、小規模校の規定はありません。今回提案している、小学校は単学級くらい感覚でまとめています。大規模校とは1学年何クラス以上というのが、国もはっきりしていません。こちらでまとめたものを書いています。

委員 たぶん、小規模校、大規模校の基準はないと思いますけれど、今の段階でいきますと、小規模校はたぶん1学年1クラスのイメージでいます。1学年2クラス以上が大規模ではないけれど、それに、今からそちらへ持っていきたい、もっていこうとする形だと思います。私の意見としては、小規模校は大反対です。小規模校にすると、私の小学校ですけど、おかげで400人いますので、1学年2クラスです。保護者の立場から話をさせていただきますと、先ほどお話がありましたけれど、2クラスあって、保護者同士が仲が悪いというのもあります。子ども同士もちろんあります。保護者同士で仲が悪くて、どうしてもあの親とは一緒にいたくない、一緒にクラスにさせないでくださいと学校にいう少し理不尽な親もいます。子ども同士でももちろん仲が悪いので、同じクラスにすると2年間、クラス替えがありません。その2年間、どうしても子どもが辛抱できないということになりますので、必ず1学年2クラスは絶対必要だと思います。2クラス以上、私は3クラスあってもよいと思います。今から子どもが減ってきますので、2クラスにしたのは、30人、30人の60人になったけど、ま

たどんどん減ってきて、また1クラスになったというケースも出てくると思います。ですから、私は思い切って、2クラスよりも3クラスの方が、4クラスは多いと思いますが、思い切った考えでいくべきであると考えています。子どもたちが、やはり競争しあいながら、学習もそうですが、運動もそうです。やはり、多くの集団の中で競争しあいながら社会へ出てゆく、そういうことを小学校の段階から作るべきであると思います。中学校、高校でも必要ですけど、その前の段階から競争しあうことが必要だと思います。それがないから、大人になってすぐキレるとか、自己中心的になり、人を刺すようないやな事件がありますが、そういう人間がでて来かねないかなと思います。ですから、私は絶対に2クラス必要だと思います。そういった方向を、1年間ずーと主張させていただきたいと思います。

委員 一番上の子が小学校5年生ですけど、2年に1回クラス替えがあるのですが、それがあ
る毎に、環境の変化がありますので、こころが不安定になってしまいます。今度は大丈夫か
と思って見守っていると、少しずつ友だちのこと理解し、自分のことわかってもらい、また
友だちのよさを見つけたり、友だちにも自分のよさをわかってもらい段々成長してゆき、す
ごく勉強にもスポーツにも意欲的に取り込めるようになってきて、友だちもすごく増えてき
ました。だから環境の変化というのが、すごく大切だと思います。これから中学、高校、大
学、社会人となっても、常に環境の変化は出てきますし、それに対応できるような、そうい
う子どもに育て欲しいので、クラス替えが出来る2クラス以上の学校がよいと思います。

会長 確かに、子どもにとってのクラス替えというのは、先ほど言われたように不安定になる
というのがありますが、ひとつの危機だろうと思います。危機というのはそれを乗り越えて一
段成長するきっかけでもあるのだろうと思います。

委員 発言されましたお2人の方が2クラス、3クラスといわれていますが、本当にその意見に
賛成です。私の場合、中学校ですけど、1学年4クラスですから12クラスありますから、
この標準からいけば結構大きい方です。それでも生徒数の問題ですけど、例えば、小学
校から中学校に進学してくる時に、他の小学校も入ってきます。けれど、小学校で音楽は、ず
ーと全国大会に出ていますし、十何年前から、どうして全国規模でがんばっているのに、中
学校にはクラブ活動がありません。例えば、近頃ブームの、あるスポーツをとにかくやりたい
から、保護者が一所懸命になって、直接学校やPTA 役員に、同好会でいいから作ってくれ
ないか訴えてくるのです。けれど、もっと大規模校で、生徒数がたくさんいて、それだけ
のことをかまえてやれたら、子どもの夢をかなえてやれるのにと少しいらだたしさもあり
ます。学校の一応方針に従う、学校の意見を聞いていますので、出来ないものはできない、
とにかくこらえてくれと言われても、親の立場としても、どうしても子どもが本当にやりた
いものをやらせたいという時、選択肢がないというのは、やはり人数の問題とかがあります。
学校内の行事ごとにしても他のいろいろなことにしても、できるだけ人数がたくさんいて、
もっと選択肢が自由に広がるような学校が理想だと考えています。

会長 音楽にしても球技にしても、やはり一定の人数が必要ですからね、多様な部活を用意する
ためにも、ある程度子どもたちが、中程度の規模でないと部活を維持できないというのは
あるのかと思います。

委員 自分が中学校の時、私は他県なのですが、12クラスありました。途中で、学校があまり、
マンモス校になりすぎて、分校という形で、学校が分かれました。音楽部もありましたし、

スポーツ部もありました。だけど端から端までのクラスが遠くて、学年全体の友だちの名前も知らない。教科の先生も学年に2～3人いて、先生も違う状態だったので、今の中学校に子どもを通わせている親の立場として、やはり3クラス、4クラスという規模はすごくいいなあと、私は、こちらへに来て、子どもを育てられることをすごく幸せに思っています。しかし、中学校で他校と一緒にいる時に、小規模校が、やはりうらやましいことあります。授業の力の入れ方とか、子どもの団結力とか考えると、メリットのすごくうらやましく思う部分があるのですが、今の小学校、中学校に子どもを通わせていることにはすごく満足しているので、2クラス、3クラス、4クラスまでが妥当なクラスでないかと思います。

委員 小規模校のご父兄はいないのですか。

会長 いかがでしょうか

委員 私の小学校は、昔から1学年1クラスしかないのですが、中学生になった時に、1クラスだったら、中学校に行った場合に、4～5クラスになりますよね。そうしたら、他校出身の子どもに圧倒されます。でもスポーツとか学業は、勉強に関しては、入学したらすぐテストがありますが、他の小学校に比べたら、成績がいいのです。運動は、競争がないから若干劣りますが、人数が少ない分、先生が見てくれるから、学力は他の小学校より若干上がっています。どちらがいいのか、今のままがいいと思うのですが、他に比べて小さいので、いいようがないのですが。

会長 これがさらに小規模化して複式学級になった時に、それでも小規模校かという議論は、出てくると思います。小規模といっても程度、大規模といっても、1学年12学級というのはどうかというのがあるのかと思います。それでいくと結構皆さん方の考え方というのは、近いのではないかとお聞きしてそう感じました。

委員 今までの話を聞いていましたら、やはり年齢よってその集団の大きさに適応する能力や育つ力が違うのでないかと思います。やはり、0歳児から3歳児くらいまでは、子どもたちの集団としては、あまり大規模だと一人ひとりを受け入れられなくなりますので、やはり受け入れてもらえるということが中心となります。3歳から5歳になれば、友だち関係も広がって、やはり1クラス20人を超した場合にどれだけ受け止めてくれるのか、先生と子どもの信頼関係になりますので、やはり小さい頃に、特に、保育所、幼稚園時代に、どれだけ受け止められて、自分を認めてもらって、自分を発揮できるかということが大事になります。小学校1年2年のあたりで、少しずつ自分のものになってゆくようなクラス編制なり、クラスの先生の配置が十分出来ていれば、小規模校の小学校であっても、少し大きくても、自分を認めてくれる、自分が出せる子どもが育つと思うのです。だからいろいろな不登校やいろいろな犯罪を生む子どもたちが、急にそうなったわけではありません。保育所に来る子どもたちは、どの子も本当に一緒です。だけど小学校、中学校に行っている子どもに、あいさつしたりして、久しぶりにあった子なんかは、ずいぶん変わっています。でもそれは十分受け止められる範囲内にあるので、そこらあたりが、学校関係も力を入れていただいて、そこで小学校中学年ぐらいまでしっかりと心の基礎をつくってあげたら、きっとどんな立場に置かれてもなんとか芽が出せていけるのではと思います。

会長 適正な規模を考えた時に、子どもの発達や年齢は、本当に大きいと思います。まず私たちは母子一体感の中から人生をスタートしているのですけれど、だんだんいろいろな人に出会

って大きな集団の中でもまれるようになってきますが、それは段階があるような気がします。

委員 まずは受けとめられてからです。

委員 小規模、大規模と二分化して考えているようですけど、逆に中規模という考え方はいかがでしょうか。例えば、12クラスあるというのは、少し観音寺市から見たらはなれた考え方ですけど、例えば、小学校で1年4クラス、5クラスもあれば大規模で、1クラスであれば小規模であり、2クラスから3クラスなら中規模という考え方をした場合には、大規模、小規模のメリットという二分化するのではなく、両方の良い方をとりながらという進め方をしていけるのではないかと思います。それで、大規模のメリット、小規模のメリットというのはどちらかというと学校全体で、おこなった時であると思います。学年にはクラスがあります。クラスの人数が多い少ないのは、大規模校だから小規模校だからではなくて、学級定員っていうのがあって、その年によって学級定員を越えて、少ない人数の2クラスできました。では1人、2人不足したから、大人数の1クラスになりました。それは、大規模校だから小規模校だからでなく、学級定員に左右されると思います。クラスの人数から見たら、大規模だからどうしても多い人数で勉強しなければいけない、小規模校だから少ない人数でしないといけないのではなくて、逆に言えば、大規模校だから2クラスに分かれて、少人数で勉強できましたというメリットも出ると思います。学校全体ではクラス数も多くなって、大規模、小規模と分かれると思いますが、クラス単位で考えた時、そんなに大規模だから、小規模だからといって大差をつけなくてよいのではないかと思います。

会長 今回、メリット、デメリットを頭の中で整理するために、あえて対比化しましたけれど、実は中規模というのは適正規模と言っているのではないかと思います。メリット、デメリットがそれぞれ融合してくるのかと思います。中規模校だからこそ、例えば、1学年50人で2クラスになった時、1学級の中は25人という先生方にとっても非常に管理ができ、しかもクラス替えがあるような、理想的な学校環境になる可能性もあるわけです。実際に観音寺市で、われわれが学校再編を構想する時には、おっしゃられた中規模校あたりができないかという議論になってゆくのだらうと思います。

委員 ここに、大規模、小規模と書いていますが、これは日本レベルで話をしているわけではないので、私の言った中に説明不足だったと思いますが、大と書いているのは、1学年複数学級、それから小とあるのは1学年が単学級という意味でとらえて話をさせていただきました。

会長 観音寺市で議論するとそういうことになりますが、東京で議論していたら、たぶん小規模校といえれば1学年、2、3クラス、大規模校なら12クラスとか8クラスになります。地域により大規模校、小規模校のイメージが若干ずれてくるのではないかと思います。

委員 大、小でいろいろメリット、デメリットは当然あると思います。ただ、観音寺市のこれからの編制についてどうするか重要になるし、保護者の方もいらっしゃいますが、行政として、保護者の意見を聞かなければならないのは当然です。市としての方針はやはり少なくともどうあるべきか、声大きいからこうであると左右されるべき問題ではないと思います。委員さんが言われたように適正規模でということではないと、規模の小さいところで、いくら優秀であったとしても、それが中学校とか高校にいった時に、はたしてうまく順応できるかという問題も考えてやるべきだと思います。

私は、いじめの一番の問題は、日本の社会が学歴社会だと基本的には思います。誰でも大

学へ行かなければいけないという風潮そのものがいじめになり、自分が勉強もできなくて、大学もいけないとっておちこぼれになっているから、やはりいじめの方にも走るのです。そこらが、基本的な問題であって、時代が少しずれているかもしれませんが、私は規模の大、小で議論するような問題ではないと思います。当然メリット、デメリットはあると思います。

会長 今日検討委員会の中での時間配分もありますので、絶対にこれはというのがありますか。

委員 複数学級になる3クラスというのは、今の基準でいえば81人以上が3クラスですから、その場合、1クラスでは27人です。それから2クラスなら41人で、21人と20人が一番少ないです。1クラスでどんなに少なくなっても20人より少なくなりません。1学級しかないところは、まだまだどんどん少なくなります。例えば10人といえば、10人も言うけれど、男の子が2人、女の子が8人とか、男の子3人、女の子7人とかの可能性が大いにあるわけです。ある市内の学校で、だいぶ前の話になりますが、男の子8人と女の子1人で、女の子は他の学校へいかせて欲しいとあって、いきました。男女別もあるので、あまり少なくなると、10人前後になった時、今言った可能性が出てきます。ある学校では、陸上や水泳には行けない実態になっています。

委員 複式はしていないのですか

委員 しています。市の方で講師の先生を入れて、教頭先生も担任を持って、複式でないようにして、複式をしています。いわゆる複式をしていない教科と、している教科があります。複式をしないとできない教科もあります。2人で体育をしても面白くありません。そのようなことが教科によってあります。男の子が10人、女の子が10人くらいないとひとつの学校が難しいだろうと思います。

事務局 今回、学校再編を考えた場合、いわゆる単学級、複数学級という教育環境で考えると、もう少しいうと、先生の数ということで考えた時に、単学級では困るという大きな問題が出かかっているわけです。例えで申し上げますと、伊吹小学校の場合でいけば、正式な数でいけば6学級として認めてくれません。国の標準では3学級です。ということは、国から配属される教員の数は校長をいれて4人しか配置されません。もともと複式でやりなさいよということになるわけです。地域によれば複式でやっているところもあり、今のところ市の講師を2人配置して、必要な時は、1年生が2人でも2人で授業しています。国から、いわゆる法律に従って配置される数というのは、人数が少なくなっていわゆる学年をまたぐような形の複式学級になれば、数が減ってきます。かつての五郷小学校でもそれがありませんでした。その場合にも十分な人数を配置されませんから、結局大きな問題がどこで起こるかということ、例えば6人配置しなければならぬとすると、音楽の専門の先生が配置できません。そうなってくるとどうするかということ、県の方へ要望して特別非常勤で週何時間は来てくださいという形で、常時音楽の先生がいない状態が起こってくるわけで、そういうことを解除しようとする、単学級ではどうしてもダメです。今、単学級の学校がいくつかありますが、教員の数としては、非常に苦勞しています。ですから、単学級の学校では、音楽も、当然その学校でおればいいのですが、いない場合は、特別に非常勤という形で、その時間帯だけ来て授業をいただいています。

また中学校の場合も、前回一応9学級ということで基準を決めましたが、9学級ということで、いわゆる5科目国語、数学、社会、理科、英語は2人配置できますが、ところがそれ

より少ないと、5科目は先生が2人配置できません。そうなってくると、教科によれば、今豊浜中学校も少し苦勞しているのですが、例えば国語の先生は2人いる、ところが理科の先生は1人しかいない、本当は2人いなければ困るわけですが、人数が不足しています。皆さん方は子どもたちを中心にご協議いただきましたが、子どもたちの先生の確保という教育環境で考えてみれば、ある程度の数、すなわちだいたい1学年2学級、中学校の場合プラスアルファつくわけですが、それだけの学級数がなければ余裕をもった教育活動ができにくいこともあるわけです。今回教育委員会が、やはり学校再編しなければならないと考えたおおもとのひとつがここにあるわけであります。

会 長 適正な学校規模、それから適正な学級規模というのもあると思います。1クラスの人数ということで、これが、10人とか8人になれば男女のアンバランスにもでてくるという話もありました。1学年2クラスあるということは、少なくとも20人の子どもがいます。学級定員の上限は40人ですので、20人から40人の間になるわけですので、さらに子どもの教育環境としての数もありますし、それから先ほど言われました、教員の数という観点からも、複数ということがありました。いかがでしょうか。

かなり、メリット・デメリットをめぐって子どもたちの教育環境、どういうものが望ましいかについてのわれわれの理解もずいぶん深まったのではないかと思います。少し急ぐようでもあります。次の資料説明4の(3)の通学の最長距離等について、事務局から説明いただきます。

事務局 資料に基づき説明する。

会 長 事務局の方で通学距離の現状について調べていただきました。この資料説明に続けて、次の議題のところ、学校再編の基準における通学距離についてというのが、次の議題にあります。観音寺市のこれから学校再編を考えるにあたって基本的な考え方として、前回の適正な学級数、もうひとつは、通学距離を観音寺市はどのように基準化するのか、今日は最低でもここまでは、全体の日程からも、決めておきたいと考えています。あと、前回の資料になりますが、地図があるところの直前のページだと思いますが、適正な通学距離の他市と国の基準が、一覧表にしていますので、それを見ていただきたいと思います。少し復習しておきます。小学校は徒歩通学ですので、最高限度を4kmとすることが適当であるというのが国の基準です。中学校については自転車通学があるので6kmを最高限度とすることが適当であるというのが国の基準であります。他市の状況を見ていただきますと、丸亀市が一番短い基準でありまして、小中学校とも徒歩に関しては2km、中学校の自転車通学については6km以内の基準を定めています。2kmから4kmの中で他市は定めています。さて、観音寺市はどうするのか。これはまた、この後、再編統合を具体的にわれわれが構想してゆく時に、通学距離がひとつの判断基準にもなりますので、これについて議論していただき、どれくらいを目安にするのか、あくまでもある程度幅を持った目安だとは思いますが、ふさわしいものを決めていただければと思います。

資料説明についての質疑と次の議題の5の(1)に入りまして観音寺市として通学距離をどのように考えるのかご意見をいただければと思います。

委 員 資料の方は最長距離ですけど、これは直線距離ですか。

会 長 実距離ですか。直線距離ですか。

事務局 直線距離というのではなく、通学距離がいくらかということで問い合わせましたから実距離です。

会長 実距離ですね。でなければ柞田小学校を直線距離で行くと、せいぜい2.8 kmくらいで収まりそうな気がしますけれど、この円で見ますと。

委員 私なりになんですけれど、何件か家を回って学校から通学路をたどった距離と地図上でみた直線距離で測ったのですけれど、実距離は、直線距離の、平均で1.5から1.8倍になるのです。条件によってはもっと長いところも、短いところもあります。それは特別なケースですので、だいたい平均で、1.5から1.8倍です。地図の状況は直線距離ですから、仮に直線距離4 kmを1.5倍した時点で、6 km小学生に歩きなさいと、私はいえません。あまりにも、図は直線距離、表は実距離というところから見ると、実際、通学距離を決める時に、直線距離なら、実距離にしたら、これくらい伸びるよと頭に入れてみなさんに考えていただきたいと思います。直線距離3 kmなら3 kmでいいよといった場合に、通学路として歩いた場合に、4 kmを越える場合もあります。通学路を歩いた場合、最短距離を通学路として選定できるかという、そういうわけではありません。学校によれば、この道は通つたらだめ、ここを本当は斜めに行けば早いのですが、こういうふうに戻りなさい、国道があるので、避けて通りなさいというところもあります。それも地域によりますが、倍の距離になることもあります。通学経路も学校側がある程度指定しますので、それも考えてといった時に、例えば3 kmと決めた時に、3 km越えているからというの何人かいるから、たとえば4 kmにしましょうか、もしくは2 kmにしましょうかと考えて、数字を述べたらいだけかと思うのですが、それでは難しいのではないかと思います。また、統合して、学校が新設された場合に、その統合した区域の真ん中にあればいいのですが、そういうわけではないでしょう。それがはっきりしていれば、何 kmというのが出せます。その学校を残す残さない、もしくは新しいのを作るによって、通学距離の選定の仕方が全然変わってくるのではないかと思います。

会長 ですから、本当に幅を持った目安とすることで、考えてゆき、実際のところは、小学生は、徒歩通学が無理だからバス通学など、何らかの通学支援を考えると、高学年だったら、東讃の方でしたか、小学生でも自転車通学を認めているところがありました。何か考えてやらないと実際には無理です。現実的には親が送り迎えしていることもあるかもしれません。細かく言えば、本当に限りないくらい要因が出てくるわけですが、ただ、こういう地図を持って、これから学校再編を考えてゆくのですけれども、どういう円で考えるかという時に、6 cmの円を引くのか、5 cmの円を引くのかというところで、組み合わせの考え方も少し変わってきます。おおよその目安として、実施のところは、4 kmは無理だと思います。1時間くらいで子どもが通える範囲に小学校がなければならぬことといえば、せいぜいどこかである学者が調べたところによると3.2 kmだそうですけれど、3 kmくらいのところかと思っています。

委員 バス通学をしている子どもが、ある事情がありまして、ずーと家まで帰るのを、子どもを連れて歩いたことがあります。大人が通る道と歩く道は違います。スクールバスの子が、バスに乗り遅れて自分で歩いた帰ったことがあります。保護者が帰ってこないといって探しにいったら、子どもは、スクールバスの道しか知らなかったのです。徒歩の道を知らなかった

のです。通学距離とか通学道路というのは先ほどご意見がありましたように、大変大事なので、杓子定規に何kmというのなかなかいえない部分があるように思います。

それから、柞田小学校では、この表の通学の最長距離の20人にあたるのは、たぶん木之郷の子どもだと思うのですが、20年以上前は、マラソン大会は1位から10位まで全部この子どもたちでした。最近は送り迎えをしていると聞きました。子どもにとって何がメリット・デメリットは言いにくいです。それから瀬戸町を、実際に歩いてみました。2.7kmというけれど、冬は、歩いたら厳しいなあと思いながら、その時に、今市内走っているコミュニティバスは空なんです。あのバスに乗れたらいいのになあと思って帰ってきました。

委員 私のところは、2.4～2.5kmあります。家を出るのが6時50分ごろです。それで40分くらいかかって、それでも苦ししないで行っています。帰るのも集団です。学校が指定している通学路が、一番安全な道です。あまり大きな道路は通らないように、事故があったらいけないから通学路を通っています。3kmが限度でしょう。

委員 小学校は歩くのが基本でしょうね

委員 学校が決めっていると通学路をいっていますが、これは誤解です。学校により少し違いますが、個人がうちは、こここのところを通って学校へ行きますと言って、地図の中に赤で書いて学校へ出し、はい、じゃどうぞそこを通ってきてください、いやこっちの方がいいんじゃないですかと、でもこっちの方がいいのですという、はいそうしてくださいなどと保護者と話しています。集団登校があるところは何人がかここを集団登校の道にしますと書いてきます。保護者の方から出しているはずですよ。提出前に、学校がここを通ってください、ここはいけませんとしていないと思います。話し合いはしていると思います。学校が一方的に決めているわけではありません。

会長 まあ、中学校の自転車通学を認めてくれるのか認められないのかというのは、2kmのぎりぎりのところで認められたり認められなかったり、それは親がずいぶん、学校はどうして認めてくれないのかと、そういうところで苦情はよくでるところですが。

委員 大野原小学校五郷の扱いはどうしているのですか。

会長 実際に統合の結果、徒歩通学が不可能になった、むずかしくなった時には、何らかの手段を教育委員会で、保護者の合意が得られるように、例えばバスとかそういった方法が講じられることは間違いないと思います。

委員 通学距離の件で、今、話をされていますが、今の資料で、最長距離が出ていますけれど、これは今から、2.5km、3km、4kmとかの基準とか目安を決めていると思いますが、3km歩けとか、子どもたちに4km歩けとかという基準を作るのはいいのですが、あまり高い基準でおくのは、どうだろうかと思います。子どもたちに3kmまでなら歩きなさい、4kmまでならいけますよと言っても、統合するにあたっては、必ず距離は伸びると思います。この基準はすぐに、3km、4kmに伸びてきます。それよりも基準は低く置いて、子どもたちは2km以内とか、最低限において、できるだけ短くして、それよりも子どもたちが安全に登下校できるような形をとるべきであると思います。例えば、先ほどから言われているスクールバスを出したり、路線バスをもっと活用するとか、統廃合すると必ずそういう問題が出てくると思います。歩くだけでは絶対不可能なことが起きてきますので、もっと幅広い目線で、距離においては低く置くという形にした方がいいと思います。小学校でもあつ

たのですけれど、今年に入って不審者が出ています。今でも裸で寝そべっている人がいるのです。子どもたちもその前を通り、こんな人がいたよと、学校に報告したよとか私たちに報告があったりするのですけれど、女の子が引っ張られたという事件が、5月にありました。どうしてもこれから秋になり、陸上をしたり、サッカーをしたりして、真っ暗な状況になり、子どもたちが帰る時に、そういう不審者がいるとなると、不安です。それが統合によると、もっと広がりますから、もっと危険な地域や場所が選定されると思います。それによるとやっぱり何回もいいますが、距離は低く置いて、遠い人は、交通機関に出来るだけ乗せてもらって、こどもたちを安心して家まで帰れるような状況を私つくるべきだと思います。

会 長 実際子どもたちが徒歩で通学する時の望ましい距離は、2 km以内になると思います。ただ、統廃合を考える時に2 kmを限度にすると、今、その中に一緒に入る学校といえ限定されますので、これから何を検討するのだろうかということになります。一方で通学距離は、それが望ましいといいながら、それを越えるものについては、路線バスやスクールバスその他の交通手段ないし、交通支援などの付帯条件を付けながら、例えば3 km以内だったら検討の対象にしましょう、あるいは、2.5 km以上だったら検討の対象にしましょうということをごここで決めた方が、後の検討委員会の議論のためには、必要でないかと思います。

委 員 私は子どもの安全のために距離を縮めたい意見です。

会 長 そうですね。実際に長距離を徒歩通学している子は、かつてはマラソンで強かったですけど、今は送り迎えしていたら、実際に弱くなっているかもしれませんね。

反対になってしまっているのですね。われわれの願いが逆になってしまいますから、現実的に通えるような通学距離になるように考えなければならぬことは間違いありません。

委 員 安全安心というのは、ものすごく大事だと思うし、遠距離通学の子は、だいたい6時40分から50分くらいに集まって、出発しています。大人の中にはまだ寝ている人もたくさんいるのではないかと思います。暗いです。例えば市外のある小学校に行くのに、6時30分ごろ集まっています。集団登校で一本道に行くのです。たしかに遠いところが他にもありますが、あまり遠いのは、安全安心という点から、それから体力的な面からも、やはり難しいなと思います。以前には、私も子どもにも、迎えに来てもらえなくて、歩いて帰りなさいと言っていましたが、最近あまり言えません。歩いて帰っていて、不審者が出たら、責任を持つかと言われたら、そこまで持てないですから。不審者が出たらずーと送っていかなくてはなりませんから、車に乗せて帰ってもらっています。どこの学校でも、多いと思います。

委 員 距離によっては、昔の学校区に戻ってもいいのでは。そうしたら通学距離が短くなります。

委 員 それですね、先ほどのことですが、学校は8時に始まるので、8時ちょうどに来たのではいけないので、どんなに遅くても、7時50分に来なければいけないとしたら、6時50分に出るとしたら1時間ですよ、だから7時に出たら間にあうあたりの距離を基準するのがよいと思います。

会 長 他市の状況のところ、例えばさぬき市のところを見ていただきたいのですが、その市の小学校のところは、「原則として、徒歩通学とする。再編により学校までの実距離が2.5 km以上となったものについてはこれこれを行う。ただし高学年は・・・」という書き方は非常にうまいと思うのは、2.5 km以上になったら再編しないのでなくて、再編してもいいんだと、そしてそれを越えた時には通学支援を行う。こういう書き方をしています。さぬき

市という香川県の東側で、われわれは、西側であります。中心から少し離れていますけれど実情からみてよく似たところがあるかと思います。やはり、実距離2.5 kmから3 km以内を望ましいとします。再編により、それを越えた時には通学支援を行うとなりますと、支障が生じる場合もあるかと思いますが、通学支援を考慮するものにするのであれば、行政的観点からも望ましいのかと思います。そういう決め方も通学距離についてはあると思います。そうすると実際には、3.5 kmの円を描いてその中での統合を考えることは、可能であります。遠い子にはそういうふうな通学支援、通学補助を考えてやることができます。

委員 実はこの会に臨む前に、午前10時から11月1日からバス路線の変更ということで、会がありました。今日の会がありますので、100円バスを通学路にあわせては出来ないかと質問したところ、当局としては、100円バスの巡回路と通学路とは切り離したいと、もちろんいろいろな無理があるとは思いますが、そういう返事でありました。

委員 始業時間がだいたい8時ですので、8時には学校へ来ていますので、それは適応できないですね。

委員 会長も今言っていましたように、通学距離をこれだけとしたら、それより長くなると当然、教育委員会や市の方で対応するのかとすると、義務付けられる話になりますので、私これを見たら高松市あたりがうまくしています。「国に準じて小学校は4 km以内を考慮しながら適切に・・・」。するしないは、うちが持っているぞと、という感じがあります。2.5 km以上になると、バス通学を行うものとなったら、当然ここでいう検討委員会の枠を越えている感じがして、教育委員会も荷が重いと思います。だから、2 kmくらいがよいのですが、国の基準より長いのはいけないが、国の基準あたりを利用しながら、手厚く財政事情によりバス支援をすとか、いろいろなことをすとかにしたらと思います。

会長 実際の観音寺市の各小学校の通学距離の最長の実情を見ますと、大体2 km前後ですね。柞田、粟井、例外はありますけれど、校区の広いところで紀伊、豊浜もそうですか、しかし、それ以外は大体2 km前後です。2.5 km、2 kmから2.5 kmくらいですね。一応適切な、実距離でいって2.5 kmかな、直線でいって2 kmとなるかもしれません。実距離で考えて、さぬき市に並ぶわけではないですけど、2.5 km。これを越えた場合には通学支援を含めて講ずることも検討すとかといった含みを検討していただいて、われわれはこれからの議論を進めるうえで、子どもたちの距離が2.5 km。ただ、実際に再編の際、どこの学校を検討の対象に入れるかで、場合によっては、3 km、3.5 kmのものもやむを得ずという形でいけたらとどうかと思います。

委員 スクールバス利用の児童は、4 kmの人が利用しているのでしょうか。

会長 どうなっていますか。4 kmですか。

事務局 自治会でなっていると思います。

委員 合併の時の条件では

委員 箕浦小学校を廃校にする時、バスでくるという条件にしたのでは。

事務局 五郷もそうだと思います。

委員 自治会との話し合いの中でそういう形が出て、スクールバス利用が何 km以上という形のものはないのですか。

委員 路線バスでも問題になりましたね。

委員 自治会で決めているかもしれませんが、近い方の自治会が路線バスで、遠い方の自治会が歩いていることはないはずですから、距離を基準にしているのだと思います。私にはわかりませんが。

委員 何かがあるのではないのでしょうか。

委員 4 km以上というのではないでしょう。4 km以上というのはいいかげんあります。

委員 栗井でも4.8 km以上ですから。地形が南の方にズーと伸びているからそういう数字が出るのでしょう。

委員 栗井も保育所やめる時もタクシーで、距離関係なく栗井保育所まで送り迎えしました。

委員 栗井は、だいぶ親の送り迎えがあると聞いています。

委員 そうですね。

委員 私は、朝、6時40分に車に乗せて出ます。集団登校の班員が集まる所に6時45分に連れて行って、そこから歩かせているのですけれど、行きは同じ学年でなく6年から1年までと一緒にいき、老人会の方が一緒について歩いて行ってくれます。夏場はいいのですけれど、冬は真っ暗です。街灯も少ないのです。ライトを照らしてやって、送り出してやる感じの状態です。今は明るくていいのですけれど、もう帰りも高学年になると陸上、今は水泳をしていますけれど、帰るとなると、上り坂になるので、やはり迎えに、先生たちも気を利かせていただき、あの水泳練習が少し早く終わりますからねと連絡いただいて、迎えに行く状態になるわけです。けれど、不審者が出たので、親たちの対策で、お母さんたちがおりていった場合は、みんなを乗せて連れて帰ります。別に通学距離が遠いからといっても、迎えに行っているのです、あまり多くは言えないのですが、小学校までがその距離なので、統廃合になって他の学校になるともっと遠くなるし、小学校が統廃合になった場合、スクールバスとか言ってくれてますが、一旦子どもがいなくなると、また、入学したら、バス通学を再開してくれるのかなと思います。

会長 個々のケース、それぞれの事情で、もちろん行政の方も財政事情で、どこまで補助、支援、援助ができるのかというのがあります。しかし子どもの安全を守るのが一番のことでありますからね。本当に細かく個々に規定できないところで、実際には、教育委員会の方でしっかり話をしていただけなければならない部分が出てくると思います。

事務局 通学距離の問題、いま登校ということで考えているわけで、今の学校のレベルでも非常に遠距離のところがありますが、何をいっても子どもたちの安全確保が一番であります。そういうことでは、学校と保護者との連携で、子どもを確実に渡すという形のものをとっていただいているわけですが、統合した場合は当然校区がひろがります。これは、ある面では、これは何らかの手段をとらないと、まさに小学校の場合は徒歩が原則という、これは大事なことです、ただやはりある距離以上の場合、方法を考えなければいけないと、高松市に書いてあるように適切な方法というのは、それぞれの段階で、話し合いになるかと思えます。五郷小学校が統合をして、スクールバスになりました。大野原小学校で、一番南になりますが、高松という地域があります。萩原より南になります。その地域の方からバスに乗せてくれないかという話があったわけですが、地域で決めていますということでお断りして、ご理解いただいているわけで、そういうことで、具体的な話になりますと、それぞれのある自治会単位でいくのか、距離で行くのか、まさに具体的話をしなければならないと思っているわけです。ある段階からは当然そういった手段をとらなければならないと思っています。

会 長 学校再編が、青写真が決まりましたから、その細かいところは、地元と保護者と話し合いながら詰めていくことになろうと思います。そのためにも、再編による実距離が、2.5 Kmだったら2.5 kmでいいと思いますが、2.5 km以上になった場合には、通学補助等を視野に入れて適切に対応するかというふうな何らかの含み表現を付け加えたうえで、実際にわれわれは、3 km、3.5 kmの場合も統廃合の検討はしてゆく。ただ子どもたちにとっての適切な通学距離は2.5 kmだということを忘れずに検討してゆくというところでは、2.5 Kmでよろしいでしょうか。2 km、2.2 km、2.5 km。2.5 kmでいきますか。それ以上になると通学補助等を視野に入れた、適切な、ちょっと表現はすぐには出てきませんが、適切に対応するというふうなそういう努力していただく記述にしたいと思います。それで今日ほぼ2時間、明日仕事がありますので、だいぶん時間のリミットまで来ていますが、次の議題、具体的方策の検討にあたっては、宿題という形でご提案したいと思います。

委 員 中学校は。

会 長 中学校は自転車通学ですので、先ほどのさぬき市で行きますと、自転車でしたら、がんばってこいでもらって6 km。そうしないと、今の豊浜、大野原の子たちの実情がそうなんじゃないでしょうか。

委 員 大野原の田野々なら11 kmですね。

委 員 16 kmというのは、五郷石砂です。毎日頑張ってきています。

会 長 適正距離を越えた遠距離通学者には通学支援を行うでなくて、通学支援を視野に入れた適切などといった書き方で、やっていきたいと思います。実際にどこまで一つひとつの事情や要望に対応でききれるかは、こちら側の財力とかそういうもの兼ね合いとなるとと思いますが、精一杯のところでも努力してもらおうことを私たちは要望したいと思います。

それで、今回の第4回検討委員会からは具体的な学校再編の方策について、つまりどこどここの学校がどういうふうにとかが、これからの議題になってまいります。それを検討するにあたってですね、これまで決めた適正な学級数ですね、小学校においては1学年2クラス、クラス替えの可能な2クラスで、6学年でいうと12クラス以上が望ましいとします。中学校に関しましては、9学級以上を望ましいとします。望ましいというのは含み表現でありまして、なかったら絶対に統合するのではなくて、検討の対象にするということでありました。そういうことで前回合意いただきました。今回、通学距離については2.5 kmと6 kmを望ましい通学距離とします。それを越えるものについては、何らかの手段を講じる努力目標を付帯につけるということでもあります。それでこの2つの基準、それとそれ以外にいくつか考えなければいけない観点があると思います。ひとつは、幼稚園、小学校、中学校の接続の問題であります。その接続の問題を考えるためには、基本的には中学校区の中で、考えるのが原則になるのだと思います。たとえば大野原中学校とか、例えば中部中学校とか、今の三豊中学校とか、観音寺中学校とかいう中での、統合の組み合わせになります。ただこれは、先ほどの例えば学級数の望ましいとするの含み表現と同じでありまして、中学校区の中での小学校の再編というのが望ましいのですけれど、場合によっては小学校6年生の時に、旧何々小学校の子たちはあっちの中学校に行き、旧何々小学校の子はこっちにということがあ

も知れません。望ましいのは中学校区の中での再編であります。この辺考慮されたいのではないかと思います。

それから、これまでの地域の歴史とといいますか、地域と地域の関係、地域の事情、歴史というもの、私はそれを知らないわけですが、そういうことも当然再編統合を考える際に、浮上してくる重要な観点だろうと思います。ただ、昔仲が悪かったからとか、昔こういうことがあったからということをやりますと、もう何も進まないこともあります。ですから、絶対に昔の事を持ち出したら、そこで話が止まります。しない方がいいと考えています。通学距離や適正な学級数、あるいは小中接続のところと同じで、望ましいと考えるわけです。

それから、なによりも、観音寺市をこれからどのようなまちにしてゆくののかという、まちづくりの観点であります。さきほど委員さんから限界集落をつくっていいののかという意見がありました。どういうふうな観音寺市にしてゆくののかというわれわれの中に、まちづくりの考えをぶつけあいながら、こういう観音寺市であってほしい、学校再編が観音寺市のあり方を決めてゆくことになるのだという心積もりをご提案をいただければいいかと思います。

それから、実際に再編するのはどの時期なのか、5年以内か、10年以内なのか、あるいは、今回はせいぜい10年以内で具体的には提案いたしますが、それを越えたところで、将来計画という形で、次の10年後の検討委員会に対して、何か宿題という形で何か書いた方がいいのか、こういうふうなこともでてくるのかもしれませんが。どの時期に統合するのか、どこを急ぐのかに関しては、耐震の問題が大きいかかわってくると思います。やはり建て替えを急いでいるもの、そういうものから、前期でまずここをやる。お金が無限にあるのではないから順番にやっていくしかないわけですから、どこを急ぐのが、もうひとつの観点になってくるかと思います。そういうことを考慮しながら、各委員さんが、統合についての青写真をもって、次回に望んで、隠さずに、最初からぶつけたいと思います。特に過小規模が予想されている平成32年度の時点で複式がとか、現に目と鼻の先に学校があるとか、そういうところについては、自分の校区でなくても、もう遠慮せずにお互いに言いあって、それにより、自分の校区に跳ね返ってくるとかといったことをあまり考えずに、観音寺市代表なのだと思って、出していただけたらいいと思います。これを宿題としたいと思います。いかがでしょうか。

通学距離、適正な学級数、小中接続、歴史的経緯、観音寺市をどういうふうなまちにしていきたいのか、そういうまちづくりの観点、統廃合をどの順番ということに関しては、校舎の築年とか、そういうことにもかかわってくるかもしれませんが、そういう観点もあるかもしれません。それぞれが、これまで事務局から用意していただいた資料を見て、青写真を持って望んでいただければよろしいかと思います。次回から本番になるのかと思います。

(次回開催の日程について調整)

では、次回は8月4日、月曜日としたいと思います。

教育長がお礼のあいさつをして閉会する。午後9時40分閉会